

ご挨拶

私は、昨年7月の市長就任以来、一環して「市民が主役のまちづくり」を掲げて、市政に取り組んできました。そして、昨年は、11月に、現状の政策についての評価を外部の視点を入れるため、事業仕分けを行いました。この結果を受け、すでに23年度当初予算から2事業を廃止したほか、さらに見直しを行っているところです。

一方で、昨年の振り返りから、個々の事業に対する仕分けだけでは解決しきれない様々な課題があること、また、外部からやらされるだけでなく内発的に市役所の組織風土や職員意識など当事者性を高めていくことも重要であると考えました。

松戸市では、23年度からの「松戸市総合計画後期基本計画」策定にあたり、できるだけ多くの市民や職員の参加により、一緒に明るい未来を創り上げようと、「イマジンまつど～私たちの明るい未来をつくる～」を行ってきました。こうした取り組みの背景には、変化が激しく、問題が複雑で正解が見えない時代にあっては、多くの人々の参加なくしては、解決策を見いだせないということ、計画に描いた明るい未来像を実現するためには、多くの市民の皆様と一緒に取り組んでいくことが不可欠であることがあります。

今回の「事業優先度評価」には、これまで培ってきた計画策定プロセスへの市民参加に加えて、評価のプロセスにも市民参加を積極的に行うというねらいもあります。こうしたことから、昨年度試行した外部の視点による「事業仕分け」に加え、庁内で行ってきた「行政評価」を結びつけ、公開の場で外部有識者、行政職員が一つの事業の束である「基本事務事業」を「対話」型で検討し、事業の具体的手段である「業務」の優先度を来場者とともに評価し、改善案を創り上げる全国初となる「事業優先度評価」を実施します。市のめざす方向づくりや現状の政策推進に加え、政策目的達成のための事業に対する評価に市民参画を促すことにより、市民とともにより良い政策や仕組みを創り出す行政経営の実現「市民が主役のまちづくり」をさらに進めていきます。

松戸市長 本郷谷健次